

医療最前線

県立中央病院から
〈249〉



縄田 昌子
女性専門科部長

子医師は「新薬の登場は20年ぶりで、片頭痛の治療は大きく前進した」と話す。片頭痛はストレスや過労との関係が深く、雨が降る前や月経前に起きやすい。痛みは4

「ズキン、ズキン」という痛みが続く、仕事や日常生活への影響が大きい片頭痛。昨年、新たな予防薬が登場し高い効果を示しているという。山梨県立中央病院女性専門科部長の縄田昌

山梨県立中央病院 女性専門科外来患者の受診理由

(主な訴え)



※縄田昌子医師の担当患者を集計

女性を悩ませる片頭痛 月1回注射 予防に効果

72時間続く。「特に月経数日前から月経中にかけて起こる片頭痛発作は重度で持続時間が長い。繰り返す耐え難い痛みに不安を抱きながら生活している人もいる」と縄田医師。日常生活に著しい支障をきた

すれつきとした病気だが、市販の鎮痛薬で対応するなどし、症状がある人の約70%は医療機関を受診したことがないとも言われている。国内の患者数は約840万人。女性は男性の3.8倍で、

30〜40代女性に限ると5人に1人の割合となる。縄田医師が担当してきた外来患者2709人の受診理由(主な訴え)で、頭痛は182人(6.7%)と2番目に多い。片頭痛が起きた時の急性期治

療としては鎮痛薬などの服用がある。急性期治療のみでは日常生活を送れるだけの改善が期待できない時や薬の使用過多により片頭痛が悪化している場合は予防療法となる。これまでの予防薬は片頭痛に特異的に作用するものではなく、降圧薬、抗てんかん薬、抗うつ薬などを用いてきた。連日の服用が必要で治療効果が不十分だったり、副作用によって継続が難しかったりするケースもあった。

2021年、「ガルカネズマブ」「フレマネズマブ」「エレマブ」という3種類の予防薬が相次いで保険適用となった。いずれも片頭痛の原因とされる物質「カルシウムイオン運送子関連ペプチド(CGRP)」の働きを抑える効果があり、片頭痛の発症抑制、片頭痛日数の減少が報告されている。副作用も少なく、1カ月(4週間)に1回の注射で片頭痛の痛みから解放されることが期待できる。

県立中央病院も昨年11月に「エレマブ」を導入。3割負担で約1万2300円と高価だが、縄田医師自身「これまでに以上に症状改善につながり、患者とともに驚いている」という。

今年4月には急性期治療の新薬も保険適用となった。縄田医師は「十分な治療効果が得られずに片頭痛に苦しんでいた多くの患者が救われることを願っている」と話している。

第2、4木曜日に掲載します